

委員会管外視察報告

総務・産業の各常任委員会で実施された管外視察についてそれぞれ委員長から報告します。

総務常任委員会

平成28年10月4、5日

視察先 ・新潟県十日町市

・新潟県津南町

①高齢者福祉事業

「高齢者が元気に暮らすことが、市の活性化につながる」という考え方で実施されて

おり、特徴は「たっしやで100対象事業」に参加するとポイント制で入浴券や授産品との交換ができ、単に利用券を希望者に配布するのは違い、趣味や学習などの事業に参加することで身体的健康だけでなく精神的健康の維持を目指している。

②小中一貫教育と学校給食の地産地消

平成26年度から十日町市内の全ての小中学校で小中一貫教育を行っており、小学校から中学校へ進学する際の、中1ギャップと言われる問題が解消されること

児童徒の交流だけでなく先生の交流も積極的に行っている。教育委員会の「子育て教育部」と市民福祉部の「子育て支援部」の2部署が事業を支えており、乳幼児から義務教育終了までの約15年間を見守ることができるといふ利点に注目した。



十日町市出土の火焰型土器

また、食育として学校給食の地産地消を推進し、約40%の地産地消率を達成している。特にコメはJAの協力により給食価格で提供され、他にもきのこ、ほうれん草、さつまいもなど、平成32年には55%の率を目標としている。

③津南町立病院

地方の公立病院にとって

の医師不足、看護師不足という同じ問題を抱えている。病院に対する自治体の負担も大きい。公立病院の本来の目的を忘れず、これらの課題を解決するため地道に取り組んでいる姿勢をみた。自治体病院協議会に委託し経営診断を実施。その結果、療養病棟を廃止して一般病棟のみとし、外来歯科を廃止した。隣接する特養老との関連をより強化にして存続を図っている。

地域医療を支える大事な場所であることを、利用者だけでなく住民全体が意識していくことが大切と感じた。(総務常任委員長 中嶋国則)

産業常任委員会

平成28年10月6、7日

視察先 ・兵庫県丹波市

・兵庫県篠山市

兵庫県の中央東部に位置する丹波市と篠山市の2市を視察。2市は隣接し共に神戸、大阪、京都からJRや自動車

①兵庫県丹波市

丹波市は人口6万6千人

で丹波栗や丹波竜で有名。空き家等対策計画を立て、住居時から空き家にならない意識付けや、発生予防対策を徹底している。現地調査及び空き家等所有者へのアンケートを実施し、実態把握に努め、管理不全な空き家等の増加を防ぐため、適正な維持管理も促進している。有効活用対策として宅地建物取引業者と連携し、「住まいるバンク」を立ち上げ情報を提供、移住希望者の促進を促し、移住希望者には「ワンストップ相談」として、住まい・仕事・人のネットワーク等に相談協力している。また、空き家等をカフェや商店などへの利活用を促進し、地域活性化に貢献している。

②兵庫県篠山市

篠山市は人口4万4千人で篠山城跡地を中心とした城下町、歴史ある建造物が多い。平成19年から「ふるさと篠山に住もう帰ろう運動」を展開、篠山暮らし案内所を開設し不動産業者と連携、携空き家物件の調査、相談

ドバイザーを置いて市内19地区で出張相談や「空き家ツアー」などを企画し利活用促進している。歴史的建造物は公共施設や資料館やレストラン、売店などに利用し、特区を活用して古い集落自体を宿泊施設として利用、フランス料理、懐石料理などを食べさせ話題を呼んでいる。NPO法人町なみ屋なみ研究所というボランティア組織が空き家の修理や利活用の提案、空き家持ち主と連携して町並み保存にも努力している。



篠山市の伝統的建物を活用した産直施設

2市いずれも地域の特性を活かしながら地域住民を巻き込み、緻密な調査と細かいサービス、相談で空き家等の利活用に努めている。

(産業常任委員長 洞口和彦)